

9. 当院による減圧症の高気圧酸素治療成績について

中根 健 黒江幸四郎 鈴江孝昭
山田直樹 本多佳弘

(愛知県厚生連渥美病院臨床工学技術科)

【はじめに】渥美半島は潜水漁業（主にミル貝を採取）を営む潜水夫がおり、ほとんどの潜水夫たちは経験に基づく独自の潜水法を行っている。そのため、急性減圧症に罹患するものが多い。当院はその渥美半島の中間に位置しており、第1種及び第2種高気圧酸素治療装置を設置し、減圧症に対する高気圧酸素治療（HBO）を実施している。ここで、HBOの治療統計をとったので報告する。

【対象と方法】1987年4月から1994年3月までの7年間で、当院にて急性減圧症に対するHBO治療を実施した総患者数359名、総治療回数635回であった。治療方法は、アメリカ海軍方式を原則としている。Type I型はT-5、Type II型はT-6で治療を行っている。

これらを年齢別、潜水深度別、潜水時間別に調査した。また、病的分類別（脳型・脊髄型・メニエール型・チョークス型・骨筋肉型・皮膚型）についても調査した。

【成績】治療成績は、年齢別では、31～40歳が30.6%と多くついで41～50歳が29.8%であった。潜水深度は、16～20mが49.3%で、21～25mが37.0%であった。潜水時間は、3～4時間44.0%、2～3時間30.6%であった。病的分類は、骨筋肉型64.7%次いで皮膚型20.3%であった。

【考察】発症者は、30～40代が多い。近年になるほど潜水深度が深くなり、1日の潜水回数も多い。そのため、潜水時間も3～4時間と長くなっている。症状として、骨筋肉型がもっとも多かった。

若干の考察を加えて、報告する。

10. 北里大学病院MEセンター及び高気圧酸素治療室の紹介

本多 隆*¹⁾ 池田光喜*¹⁾ 西川 温*¹⁾
新藤正輝*²⁾ 渡辺 敏*¹⁾*³⁾

*¹⁾北里大学病院MEセンター
*²⁾北里大学医学部救命救急医学
*³⁾北里大学医療衛生学部

医用工学の進歩により数多くの医療機器が臨床現場に導入されている。これらの医療機器は効果的な医療遂行には欠くべからざるものであり、CE部門の果たす役割は非常に重要である。しかし大多数の病院にCE部門が普及していないのが現状であり、高気圧酸素治療に携わっている臨床工学技士は高気圧酸素治療のみに従事していることが多いとおもわれる。

今回北里大学病院MEセンターの組織、運営、高気圧酸素治療室との関わりについて述べる。

MEセンターは1981年に開設され、中央診療施設系に属し現在部長1名、係長1名、主任3名、技士10名、パート2名、計16名で機器管理、臨床技術提供をおこなっている。機器の管理台数約2000台、うち呼吸器は127台である。臨床技術提供は中央手術部での人工心肺、ペースメーカ、各種モニタ、ICU、CCUでは各種補助循環各種モニタ、検体検査機器の使用管理、バルーンパンピング、放射線部では心臓カテーテル検査、各種モニタ、一般病棟では各種モニタ、呼吸器回路交換及び点検、救命救急センターでは高気圧酸素治療、各種モニタ、補助循環等である。高気圧酸素治療室は1986年に開設、現在MEセンターより専任の臨床工学技士2名が配属され、救急的治療に対処出来る体制である。また、院内教育も重要と考え、新人医師、看護婦などに機器取扱の講習会を開催し、院内刊行物に医療機器の正しい取扱方法を掲載している。また、教育機関から臨床実習を委託され実施している。